

学校教育高度化センター関連事業（イノベーション科研）

社会参加の学習ユニットにおける本年度の活動

報告者 小玉 重夫（学校教育高度化センター長・基礎教育学コース教授）

1. 社会参加の学習ユニットの役割

本ユニットでは、社会を市民的・公共的世界と職業的世界に分節化してとらえ、前者の市民的・公共的世界については、多文化共生と市民性（シティズンシップ）を課題とした新しい学習分野の登場に対応するカリキュラムの条件を、**市民性教育に関する二つのプロジェクト**（学校教育の内部から迫るAと、外部から迫るB）と、**バリアフリー教育プロジェクト**によって明らかにすることをめざす。後者の職業的世界については、職業的レリバンスを有するカリキュラムの条件を、**職業教育プロジェクト**によって明らかにすることをめざす。最終年度の本年度は、カリキュラムの提案を念頭に研究を行った。

以下では、それぞれのプロジェクトの担当者が、進捗状況を報告する。（小玉重夫）

2. 各プロジェクトの成果

(1) 市民性教育プロジェクトA（川本隆史、小玉重夫、片山勝茂、金森修）

本プロジェクトでは、市民性（シティズンシップ）教育を学校のカリキュラムに導入する可能性とその条件を、理論・思想と実践の両面から検討することをめざしている。後者の実践については、日本における先進的实践校と自治体の実践成果をふまえつつ、附属中等教育学校と協働して、シティズンシップ教育のカリキュラム開発を行うことをめざしている。

最終年度である本年度は、欧米のシティズンシップ教育の思想動向を公共性の観点から整理しつつ、日本との比較対象を行い、国際学会で小玉が発表を行った（第9回シティズンシップ教育国際

会議、9th CitizED International Conference in Tokyo）。

また、附属中等教育学校の教員と協働で「シティズンシップ教育のカリキュラム開発」の研究グループを組織し、「哲学教育プロジェクト」からも一部メンバーが合流して、活動を行った。本年度は、昨年度に引き続いて、各教科で授業実践を試行的に行い、その検討をした。また、シティズンシップ教育を実践している神奈川県立湘南台高校、お茶の水女子大学附属小学校、品川区立日野学園、京都府八幡市教育委員会を訪問し、授業参観とヒアリング、意見交換を行った。以上の成果をまとめて、シティズンシップ教育についてのカリキュラムモデルを提案し、本グループとして報告書を作成する予定である。（小玉重夫）

(2) 市民性教育プロジェクトB（牧野篤）

市民性教育Bは、引き続き、子ども・青年が他者との承認関係の中で自己認識を深め、社会参加へと至る筋道を探っている。具体的な対象は、a.柏市の多世代交流型コミュニティの実践、b.飯田市の集落レベルの社会教育活動、c.ものづくりプロジェクト・ものラボJAPAN、さらに今年度は、d.東日本大震災被災地の大槌町における高齢被災者との交流事業を組み込んだ。今年度も引き続き、これらの実践を相互にネットワークする試みを行った。たとえば、a.とc.を結びつけた「東大キッズセミナー」では、コミュニティカフェをベースにした、インプロとマジック・セミナーそしておとなたちとの交流を、さらにc.ものラボJAPANとのジョイントでは、遊具をテーマにデザインからモデリングまでを行い、彼らが自分の思いを形にししながら、それを地域社会との交流へと還し

ていく動きを追った。また、d.では高齢者の語りを聞き取りながら、若者たちがそれを再構成しながら、新たな物語を構成する試みを進めた。そこでは、学びの過剰性を導くのが、他者とともにあることでもたらされる利他性と近接性であることがとらえられた。

(牧野篤)

後調査を実施する。

(本田由紀)

(3) バリアフリー教育プロジェクト (白石さや、星加良司)

本プロジェクトでは、様々なマイノリティを包摂した共生社会を生きる力を涵養する効果的な学習プログラムの開発を目標とし、参加型の学習モジュールの開発・実践とその効果検証を重ねてきた。その成果を踏まえて今年度は、開発されたプログラムを広く中等教育の場で実施することが可能になるよう、プログラム実施の簡便化と効率化、指導マニュアルの整備、参考資料等の充実等を進めた。また、それらを用いて附属学校の道徳の授業内でプログラムを実践することにより、中等教育の既存教科の枠組みの中で汎用的にプログラムが活用されることを確認した。それらを受けて、ウェブサイト等でプログラム教材を広く公開するための準備を進めている。

(星加良司)

(4) 職業教育プロジェクト (本田由紀)

「教育の職業的意義」グループでは、昨年度に引き続き今年度は7月に「国際的な仕事」の授業を東大附属中等教育学校の沖浜先生に実施していただき、10月には神奈川県立光陵高校において昨年と同様の「労働法」および「金融」の授業を外部の専門家に実施していただいた。いずれも事前・事後に調査を実施し、授業の効果を把握した。並行して、上記以外の分野として「医療・看護の仕事」「運輸の仕事」「情報システムの仕事」「ものづくりの仕事」についても、東大附属中等教育学校および広島大学附属中学・高校の先生方に授業案を作成していただいた。加えて年後末には2011年度に実験授業を実施した生徒を対象に2年